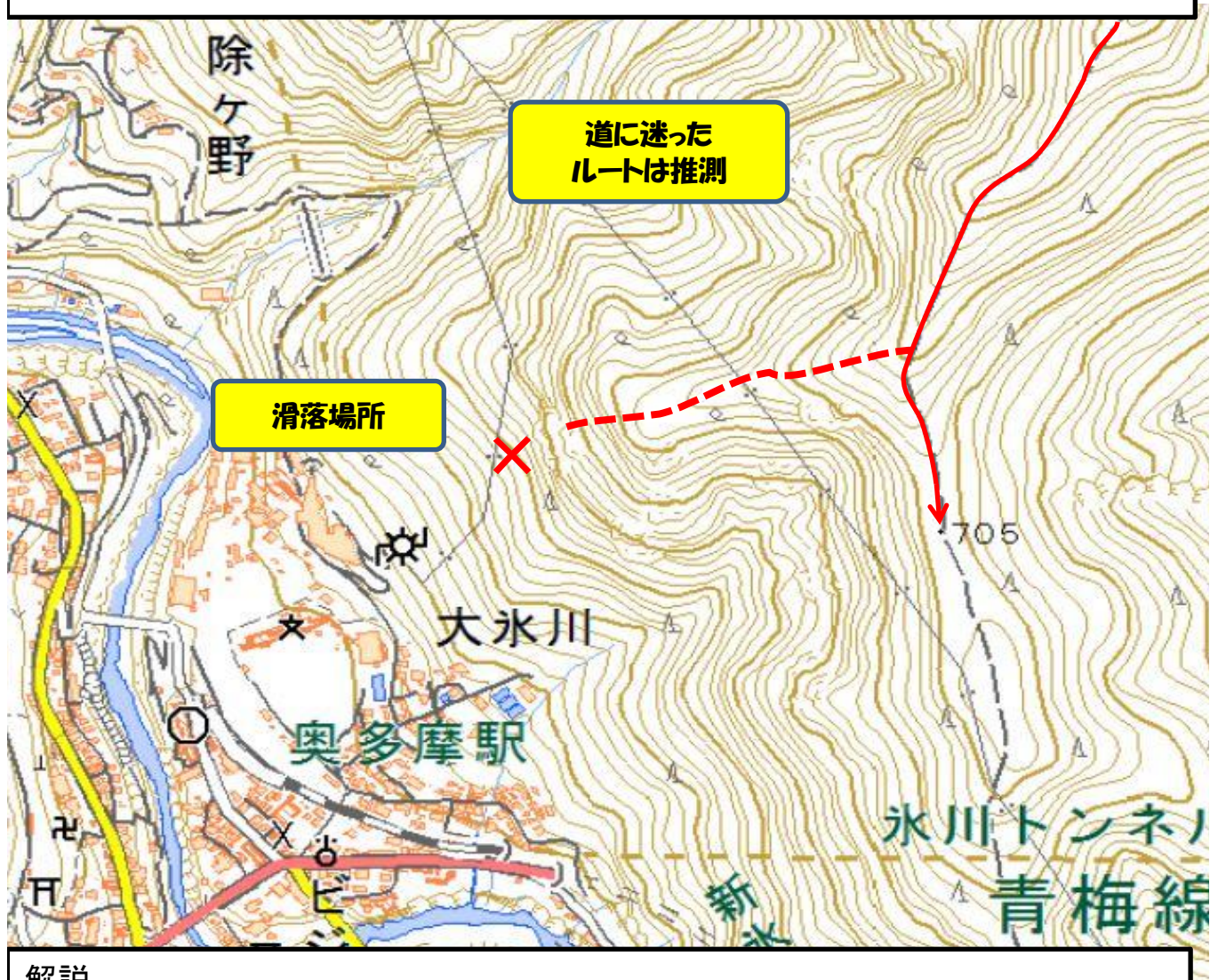


## 本仁田山遭難(2015年1月)

登山道から外れ、岩場から転落し、男性二人が遺体で発見された。奥多摩駅まで直線距離であと500mだった。



## 解説

二人が下山してきた道は、踏み跡はあるものの、いわばバリエーションルートであった。発見地点は、登山道からも外れた岩場の下だった。この発見の地点から下を見ると、氷川小学校や奥多摩駅が間近に見える。迷ったことを知りながらも、無理に降りようとしたのだろう。あと500mで下山できたという、誠に痛ましい遭難事故であった。

道迷いの不思議は、「あれっ。この道はおかしい。」と思っても、「なんとかなるだろう」と進んでしまうことである。しかも、崖が出てきても、引き返すことを考えない場合もあるのだ。

滑落した岩場には、二人が掛けたのであろう、スリングをつないで長くしたものをダブルにして5mほど垂らしてあったという。

道迷いから滑落に至ることは知られている。その行動は、遭難者自身が「行ける」と判断してしまうからである。もう一人の自分が進んではダメと言っても実際には進んでしまう。こういった行動をとらないように普段から気を付けておきたい。